

特定化学物質・四アルキル鉛作業主任者講習受講報告

中谷 宣弘 (医学系部門)

1. はじめに (目的等)

猷体の防腐処置を行うにあたり、ホルマリン、フェノールを使用する。これらの物質は特定化学物質の2類と3類に分類されており、取り扱う場合には1人以上の作業主任者を置かなければならないため、今回受講した。

2. 期間・場所・参加者等

- ・平成21年4月7～8日
- ・広島市林業ビル (広島市)
- ・上記物質を扱う仕事に携わる方々 (約50名)

3. 研修内容

2日間の講習の後、修了試験が行われた。試験で6割以上の点が取れると合格となる。

[1日目]

- ・ 9:00～16:00 講習

[2日目]

- ・ 9:00～16:00 講習
- ・ 16:00～17:00 修了試験

4. まとめと感想

これまでにも猷体作業にてホルマリン、フェノールを扱ってきたが、恥ずかしながら作業所単位で1名以上の作業主任者を置かなければならないとは知らなかった。安全衛生委員の方の指摘を受けてようやくそれを知り、今回受講するに至った。

2日間聴講し、特定化学物質の特徴や扱う上での危険性を再確認することができた。今回得られた知識を有効に使い、今後も安全な作業を心掛け、事故の無いよう努めたい。

ボイラー取扱技能講習受講報告

東脇 隆文 (フィールド科学系部門)

畠山 照彦 (医学系部門)

1. はじめに (目的等)

近年、小規模のボイラー等であっても、コンピュータ内蔵による自動化に加えて、高性能化や

燃料の多様化が進み、その取り扱いには高度の知識と技能が要求されるようになってきている。

現在の業務で我々が取り扱っている小型貫流ボイラーといえども、その取り扱いや保守管理を誤ると破裂、ガス爆発等の災害を引き起こす可能性がある。したがって、その取り扱いに当たる者は、必要な技能や知識を習得しておく必要があると言える。本講習を受講することで、ボイラーに関する知識や技能を修得することができ、さらには現在取り扱っているものよりも規模の大きい、小規模ボイラーの取り扱いが可能となる。本資格を今後の業務に生かしたいと考え、今回の技能講習を受講した。

2. 期間・場所・参加者等

- ・平成21年5月20～21日
- ・広島商工会議所 (広島市)
- ・受講者：約40名

3. 研修内容

テキストに沿って講義が行われ、最終日の最後に修了試験を受験した (各日、途中で昼休みが1時間有り)。

[1日目]

- ・ 9:00～12:00 構造に関する講義
- ・ 13:00～17:00 取り扱いに関する講義

[2日目]

- ・ 9:00～12:00 点火および燃焼に関する講義
- ・ 13:00～16:00 点検及び異常時の処置に関する講義
- ・ 16:00～17:00 関係法令に関する講義
- ・ 17:00～18:00 修了試験

4. まとめと感想

【東脇】 今回の技能講習を受講し、小規模ボイラーに関する知識を多く理解することができました。今回受講したことを生かしてボイラーの取り扱いに従事しながら安全に努めたいと思います。

【畠山】 今回の技能講習を受講し、小規模ボイラーの構造、取り扱い、点検方法、さらには関係法令等、テキスト全体の要点を覚え、ボイラーに関する知識を深めることができた。また配管部分

等の名称や専門用語，日常の取り扱いでは見落としがちな点等を学習することができ，大変参考になった．今回学習したことを生かし，ボイラーの取り扱いや点検等の作業手順を再確認し，職場の安全衛生の向上に努めたいと考える．なお，修了試験の可否結果は後日，本人宛に郵送され，合格の場合は修了証交付の手続きを行う予定である．

フォークリフト技能講習受講報告

山口 哲平（フィールド科学系部門）

木原 真司（フィールド科学系部門）

田中 明良（フィールド科学系部門）

1. はじめに（目的等）

附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター（西条ステーション）における業務では，各種車両を使用する作業が多くある．その中でも使用頻度の高いものに，フォークリフトが挙げられるが，飼料の運搬等には1t以上のフォークリフトを使用する．

その際私有地内においても，フォークリフトを運転するためには，労働安全衛生法によりフォークリフト技能講習を受講しなければならない．そこで本講習を受講し，適切な知識や技能を修得して安全かつ円滑に業務を行うべく資格取得を目指すものである．

2. 期間・場所・参加者等

【山口】

- ・平成21年5月22日，25～27日
- ・広島県労働基準協会志和教習所（東広島市）
- ・受講者：学科講習26名，実技講習15名

【木原，田中】

- ・平成21年6月2日，5日
- ・テクノ自動車学校（広島県安芸郡熊野町）
- ・受講者：学科講習15名，実技講習3名

3. 研修内容

初日の学科試験および最終日の実技試験により，可否を判断する．

[初日] 学科講習および学科試験

[2～3日目] 実技講習（ただし，大型特殊免許を

取得している場合は免除）

[最終日] 実技講習および実技試験

4. まとめと感想

【山口】 今回の技能講習では，フォークリフトの取り扱い方法に重点が置かれていたが，特に安全に関しては，すごく厳しく，何度も指摘された部分でした．フォークリフトも含めて重機を扱う際には，安全に最大限留意し，正確な操作や適切な使用を怠ると，最悪の場合，死につながるということを改めて感じ，スピードを求めず，丁寧な運転を心掛けないといけないと感じた．

【木原】 フォークリフトにおける作業は，非常に危険の多い面が多々ある．荷積みをした状態では前方の視界は塞がれ，重心は偏り転倒の危険性も高くなる．そのほか後輪操舵であるなど，フォークリフトは他の作業車両とは一線を画すことから，この度の技能講習で学んだことを随所で活かし，円滑かつ安全な業務を行っていきたいと考えている．

【田中】 フォークリフトの労働災害は非常に多く発生しておりその事故原因の多くは整備不良，無資格者による運転，安全意識の薄さなどです．今回の技能講習では作業時の安全の心得や作業開始前の点検・整備について重点を置き何度も指摘された部分でした．フォークリフトを扱うときだけでなく他の作業機を扱う際には，点検・整備・安全確認をしっかりと行い最大限安全に気を配り，作業を行っていきたいと思いました．

小型車両系建設機械特別教育受講報告

山口 哲平（フィールド科学系部門）

1. はじめに（目的等）

附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センターでは，除糞および圃場整備等に小型車両系建設機械を使用する．その際私有地内においても，小型車両系建設機械を運転するためには小型車両系建設機械特別教育を受講しなければならない（労働安全衛生法）．そこで本講習を受講し，円滑に業務を行うべく資格取得を目指すものである．

2. 期間・場所・参加者等

- ・平成21年6月20日
- ・キャタピラー教習所中国教習センター
広島教習所（広島市）
- ・受講者：8名

3. 研修内容

- ・9:00～ 学科講習
- ・15:30～ 実技講習

4. まとめと感想

今回の特別教育講習では、学科講習においても実技講習においても、基本的な部分を中心であった。実際に操作する場合はまだまだ未熟な部分があるので、丁寧に安全に留意して作業する必要がある。

日本微生物資源学会第16回大会参加報告

川北 龍司（医学系部門）

1. はじめに（目的等）

伝統ある本学の微生物遺伝資源保存室（略号：HUT）が系統保存機関（カルチャーコレクション、以下略してCCとする）としての機能を維持するため、機関会員として登録している日本微生物資源学会（JSCC）に参加し、最新の情報を収集および交換することにより、職務をよりよく遂行するために役立つ。本学会は他機関の担当者との交流を深め、情報を得ることができる唯一の機会でもある。

2. 期間・場所・参加者等

- ・平成21年6月24～26日
- ・大阪大学吹田キャンパス 銀杏会館（吹田市）
- ・日本微生物資源学会個人会員，機関会員（CC）関係者，協賛会員（企業）関係者等

3. 研修内容

※ 大会プログラムは下記 URL を参照

（ただし、講演要旨は冊子体につき省略）。

<http://www.jsc-home.jp/info/program0406.pdf>

[総会，CC委員会，実務担当者会議討議内容]

- (1) 各機関会員における事業報告と機関会員の動向について

- (2) JSCC オンラインカタログデータベースについて
- (3) 国際 GBIF へ JSCC カatalogデータの提供について
- (4) グローバル BRC ネットワーク実証プロジェクトについて
- (5) JIS Z 2911カビ抵抗性試験菌株の入れ替わりについて
- (6) カビ抵抗性試験の実際と菌株入れ替わりの試験結果への影響について
- (7) バイオセーフティレベル（BSL）の定義について
- (8) IFO より設備提供について
- (9) 学会会員，会計，カタログ，学術企画，渉外事項，次回開催予定報告，受賞者表彰等
[学会発表，シンポジウム内容]

- (1) 受賞講演「細菌分類学とカルチャーコレクションの役割」
- (2) 特別講演「次世代シーケンサを用いた微生物・感染症解析」
- (3) 一般講演5第目およびポスター発表24第目
- (4) シンポジウム「モデル生物，ものづくりとしての微生物パワー」のテーマで5題目

4. まとめと感想

国内の主要はカルチャーコレクションの多くは関東地方にあり、本学においてはその動向を知ることがなかなか難しく、本学会が他のCCや微生物資源まつわる最新の情報を知る唯一の機会であるため、毎回非常に有意義な学会である。保存標品の入れ替わりについては本学 HUT においても起こりうることであり、そのようなことが発生しないような対策を講じると共に、品質チェックの重要性を認識させられた。また BSL については何に対しての BSL なのかどうかを明確にする必要があると思われた。シンポジウムの内容は研究室における研究テーマと関連がある内容もあり興味深いものであった。今後、JSCC オンラインカタログデータベースのデータ提供を行う予定である。

海産半索動物ヒメギボシムシの採集

山口 信雄（フィールド科学系部門）

1. はじめに（目的等）

本出張はヒメギボシムシの採集を昨年度より探索範囲を広げつつ、現在のヒメギボシムシ生殖巣の発達具合の確認と、その性成熟したヒメギボシムシのサンプル採取を目的とした、採集、発生、人工飼育スキル向上の研修の一環である。

2. 期間・場所・参加者等

- ・平成21年7月5～9日，8月4～6日，9月15～17日
- ・（和歌山県東牟婁郡串本町）
- ・参加者：本人のみ

3. 研修内容

[7月] 昼頃の引き潮を狙い、潮岬西北部をシュノーケリングにて水深0.5mあたりまでのヒメギボシムシが生息している珊瑚砂の部分を探索した。沖縄に生息するヒメギボシムシ(?)と同じく干潮時に完全に水が引く部分にも生息が確認され、潮位70cm～干潮～70cmが最適な採集時間帯と判明。目の細かい固く締まる砂の部分には生息しないことを確認した。また、潮岬東部、紀伊大島にはヒメギボシムシは発見できなかった。潮岬南部は装備を持ってたどり着くのが困難であり、探索を断念した。潮岬より西部は時間的制限から砂の状況を写真に収める程度に留めた。

[8月] 昼頃の引き潮を狙い、潮岬西北部をシュノーケリングにて水深0.5mあたりまでのヒメギボシムシが生息している珊瑚砂の部分を探索した。前回までの調査で防波堤から500mの付近では雄しか採集されなかったため、さらに約1km奥の干潮帯から雌らしいと思われる（肉眼での判別は困難）個体を約70個体採集した。

[9月] 性別判定実験や飼育実験での消耗や東北大学公開臨海実習のためにサンプルを供出し、手持ちの材料が少なくなったために、補充のための採集を行った。昼頃の引き潮を狙い、潮岬北西部をシュノーケリングにて水深0.5mあたりまでのヒメギボシムシが生息している珊瑚砂の部分を探索した。前回の南側の調査地域（アンドノ鼻）で

は、原因不明の発疹（虫さされ?）があったため、やや北側から採集を開始した。

4. まとめと感想

[7月] 現在では潮岬西北部が本土では唯一採集可能な地域であり、それ以外の場所も検索する必要性をさらに感じた。現状の環境を維持しつつ、将来的には繁殖させたヒメギボシムシの放流による生息地の維持も考慮する必要性もあると考えられる。

[8月] 現在までに10匹を超える放精が見られるが、雌がまだ確認できない。一通りの個体の雌雄を判別した後、この奇妙な減少について考察し、何らかの形で発表を行いたい。また、初日にアンドノ鼻と呼ばれる部分の先まで調査したが、ガンガゼ（有毒のウニ）が非常に多く、採集が困難であった。また、直接触れずとも砂の中に埋まった棘先と思われるものにより、数時間後にウェットスーツの継ぎ目やグローブのメッシュ部分に発疹が生じた。ステロイド剤を即時に使用して1週間以上経過した今でも痒みと腫れが継続している。そのため、その後は北上した部分で採集を続行した。

[9月] 初日のアンドノ鼻よりかなり北側での採集は問題無かったが、2日目のアンドノ鼻にやや近い場所の調査では、前回同様にウェットスーツの継ぎ目やグローブのメッシュ部分に発疹が生じた。原因は未だ不明。ヒメギボシムシは状態が良い物が50体ほど採集できた。

特別管理産業廃棄物管理責任者に関する講習会受講報告

島山 照彦（医学系部門）

1. はじめに（目的等）

今回の講習会は「廃棄物処理法」に定められている特別管理責任者になろうとする者等が対象である。特別管理産業廃棄物管理責任者は、環境省令で定める資格を有する者でなければならないが、本講習会を修了することで、「同等以上の知識を有すると認められる者」として認定される。現在

の業務において感染性廃棄物の管理等を行っているため、特別管理産業廃棄物にかかわる管理全般にわたる業務を適切に遂行するために、必要な知識を習得することを目的とし、本講習会を受講した。

2. 期間・場所・参加者等

- ・平成21年7月16日
- ・広島県情報プラザ（広島市）
- ・受講者：約140名

3. 研修内容

テキストに沿って講義が行われ、最後に修了試験を受験した。

- ・ 9:00～ 9:30 受付
- ・ 9:30～ 9:40 開講・開会挨拶
- ・ 9:40～ 9:50 概要説明
- ・ 9:50～13:30 講義：行政概論
- ・ 13:40～16:00 講義：特別管理産業廃棄物の処理と管理
- ・ 16:10～17:00 修了試験

4. まとめと感想

今回の講習会を受講し、日頃から管理している感染性廃棄物を含む、特別管理産業廃棄物の種類、処理方法、関係法令等を学習することができ、大変参考になった。中でも毎週、廃棄物処理業者に交付している産業廃棄物管理表（マニフェスト）制度の仕組みについて理解することができたことで、排出事業者としての責任感を改めて自覚した。今後も産業廃棄物の処理の流れを自ら把握し、適正な処理を確保できるよう、業務を通して日々考えていきたい。なお、修了証は講習会終了後、約3週間後に、原則として受講者の勤務先へ送付される予定である。

玉掛け技能講習受講報告

- 木原 真司（フィールド科学系部門）
- 山口 哲平（フィールド科学系部門）
- 田中 明良（フィールド科学系部門）
- 平松 正太郎（理工学系部門）

1. はじめに（目的等）

附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター（西条ステーション）内における業務は多岐にわたり、そのひとつに濃厚飼料の運搬等がある。ここでは大量の飼料を運搬するために1t以上のクレーンを使用する。

また、工学研究科実験棟等では、実験機材や実験材料の運搬にクレーンを使用することがあるが、吊り上げ荷重1t以上のクレーン等に物を掛け外しをすることがある。

その際必要とされる技術に玉掛けがあり、労働安全衛生法により玉掛け技能講習を受講しなければならない。そこで本講習を受講し、適切な知識や技能を修得して安全かつ円滑に業務を行うべく資格取得を目指すものである。

2. 期間・場所・参加者等

3名ともに、場所は下記の通り。

- ・広島県労働基準協会志和教習所（東広島市）

【木原】

- ・平成21年7月21日～22日、30日
- ・受講者：40名程度

【山口、田中】

- ・平成21年8月10～11日、18日
- ・受講者：学科講習40名程度、実技講習10名

【平松】

- ・平成21年11月24～25日、27日
- ・受講者：学科講習30名程度、実技講習10名

3. 研修内容

2日目の学科試験および3日目の実技試験により、合否を判断する。

[1～2日目] 学科講習および学科試験：クレーン等に関する知識、力学に関する知識、玉掛け方法、関係法令等

[3日日] 実技講習および実技試験：玉掛け作業、用具の選定、質量目測等

4. まとめと感想

【木原】クレーンフックにワイヤを掛ける単純な作業ではあるが、予想以上に注意する点が多いことに驚いた。しかし、それは現在では当たり前と

される規約も、一昔前までは特に無く、頻繁に事故が起こっていた背景があるためである。そのことからわかるように、玉掛け作業は常に作業者に危険が及ぶ可能性をはらんでいる。それらに留意しながら今後、作業に従事していきたいと思う。

【山口】 今回の技能講習において、玉掛け作業は、クレーン作業者と共同で作業を行うので、両者が安全に留意し、適切な操作を行うことで始めて作業を円滑に進めることができるようになる。そのため、クレーン作業者との事前の打ち合わせが非常に重要であると感じた。

【田中】 クレーンや揚貨装置等の荷役運搬機械は物流における重要な機械装置で、作業の合理化・省力化に大きく寄与していますがクレーン等の労働災害は多く発生しておりその1/3が玉掛け作業に関連するものです。今回の技能講習では作業時の安全の心得や作業開始前の点検・整備について重点を置き何度も指摘された部分でした。玉掛け作業を行うときだけでなく他の作業機を扱う際には、点検・整備・安全確認をしっかり行い、最大限安全に気を配り、作業を行っていききたいと思います。

【平松】 玉掛け作業は、用具の選定や玉掛け方法を間違えると、即大事故につながる可能性が高い。事実、クレーン等にかかわる死亡災害の1/3が玉掛け作業に関連するもので占められている。教職員や学生の安全を守るためにも、上記の点に留意しつつ、作業に従事していきたい。また、今後はクレーン等の資格も取得し今回の技能講習を有効に活用したい。

中国・四国地域大学附属農場協議会参加報告

積山 嘉昌（フィールド科学系部門）

木原 真司（フィールド科学系部門）

1. はじめに（目的等）

農学系技術職員の資質向上ならびに各機関の技術部門の活性化を図ることを目的に開催される研修であり、他大学の現状を把握し今後の業務に反映させるため、この度の農場協議会参加した。

2. 期間・場所・参加者等

・平成21年7月23～24日

・松江ニューアーバンホテル別館（松江市）

・受講者：48名

3. 研修内容

[1日目] 全体会議、技術職員体験発表および分科会

[2日目] 施設見学（ただし、積山技術員は諸事情により欠席）

4. まとめと感想

【積山】 今回、協議会に参加したことで、各大学の現状等を知ることができ、参考になった。課題がたくさんある中で、常に技術職員の向上、活性化を図ることを強く感じた。2日目は諸事情により欠席したことが残念である。また機会があれば、今回のような研修会に参加し、他機関との交流や情報交換を行っていきたい。

【木原】 今回の協議会を経て、普段知ることのない他大学の現状や考え方等を知ることができ、大変参考になった。様々な課題がある中、技術職員自身の活性化が非常に重要であると感じた。このような機会があればまた参加したいと思う。

平成21年度（夏期）ボイラー実技講習／2級ボイラー技士受験報告

神崎 道文（医学系部門）

1. はじめに（目的等）

このボイラー実技講習は、2級ボイラー技士の受験資格を得るための講習である。

日常業務では、資格の必要のない簡易ボイラーを取り扱っているが、有資格者が扱えるボイラーと同じく蒸気を使用する。安全のための正確な知識や技術の習得を目指し、2級ボイラー技士の資格を取得したいと考え、受験資格を得るためにこの講習会に参加した。

さらに、日常的に使用管理しているボイラー等の圧力容器について、知識を深めより確実な業務を行うため、この資格試験を受験した。

2. 期間・場所・参加者等

[講習]

- ・平成21年8月18～19日, 21日
- ・広島商工会議所, マツダ教育センター (広島市)
- ・一般社会人および学生 (約120名)

[試験]

- ・平成21年10月17日
- ・広島工業大学専門学校 (広島市)
- ・一般社会人および学生

3. 研修内容

(1) 学科講習

ボイラーの概要から機器の取り扱いまで座学形式で講習が行われた。

(2) 実習

ビデオの視聴やシミュレータを用いた講習とボイラー室にて実際の機械を確認しながらの操作等を行った。

(3) 学科試験の受験

4. まとめと感想

このボイラー実技講習を受講することにより、2級ボイラー技士の受験資格を得られたので、今後は資格試験合格を目指し準備を行っていきたい。(受験直後の感想) 10月19日現在、合否については不明ではあるが、この受験を通して、改めてボイラー等の勉強ができ、有意義なものとなったと考えている。この受験により得られたものを今後の業務に生かしていきたいと考えている。

平成21年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修報告

土橋 誠 (工作部門)

岡本 和也 (工作部門)

岩崎 貞治 (フィールド科学系部門)

川北 龍司 (医学系部門)

桂 由香理 (医学系部門)

北川 和英 (医学系部門)

1. はじめに (目的等)

中国・四国地区国立大学法人及び独立行政法人国立高等専門学校の技術職員相当の職にある者に

対して、現状の業務に幅広く活躍できる技術職員を目指して職務遂行に必要な基本的・一般的知識および新たな専門知識、技術等を習得し、他機関の技術職員との交流、現在の諸大学の状況等の情報交換を行って職員としての資質の向上を図るため、本研修に参加した。

2. 期間・場所・参加者等

- ・平成21年8月26～28日
- ・岡山大学津島キャンパスおよび鹿田キャンパス (岡山市)
- ・中国・四国地区国立大学法人および独立行政法人国立高等専門学校機構の技術職員 (59名)

3. 研修内容

本研修では、全体講義と分野別講義・実習が実施され、それぞれ受講した(プログラムは下記の通り)。

[1日目]

(津島キャンパス)

- ・開講式 (オリエンテーション, 写真撮影)
- ・全体講義「国立大学法人等における管理運営」
- ・基礎講義 (物理学)「超高压実験による地球内部探査」
- ・全体講義 (技術)「オペレーティングシステムの基本と現状」

[2日目] コース別講義・実習

【土橋, 岡本】 (機械分野: 津島キャンパス)

- ・「Rhinoceros による3D モデリング入門」
- ・「機械技術・基礎を学ぶ創造実験・実習」
- ・「空気圧ゴム人口節を用いたパワーアシスト装置」

【岩崎, 川北, 桂, 北川】

(生物・生命分野: 鹿田キャンパス)

- ・分野別講義「電子顕微鏡でみる世界」
- ・分野別講義「試料作成概要」
- ・実習 I 「透過型電子顕微鏡 (TEM) の試料作成および観察」
- ・実習 II 「走査型電子顕微鏡 (SEM) の試料作成および観察」
- ・正常標本室見学, 質疑応答

[3日目]

(津島キャンパス)

- ・全体講義（技術）「岡山大学における化学物質管理と廃液処理」
- ・全体講義（技術）「希少植物を使って屋上緑化」
- ・閉講式

4. まとめと感想

【川北, 北川】 第1日目および第3日目の講習内容は特定の分野に偏らず多岐に渡っていたため、自身の専門分野外の知識も得ることができ有意義であったが、参加者の専門分野が多岐にわたるため、最大公約数的に話題を絞るのは難しそうだと感じられた。また、第1日目の講師の方が懇親会にどなたも参加しておられなかったため、講義内容について詳細を伺うことができなかつたことについて、残念に思えた。第2日目は、分野別講義・実習として機械分野は津島キャンパスの工学部、生物・生命分野は鹿田キャンパスの医学部と2グループに分かれて講義と実習が行われたが、ここでは生物・生命分野について報告する。生物・生命分野の分野別実習については、人員があまりにも多すぎたこともあり、自身の手で電子顕微鏡を操作できる時間が、1人あたり約5分と短かつたことが残念に思えた。しかし、限られた時間の中で、多数の参加者に対して電子顕微鏡の概略を理解させる目的としてはよく考えられた内容であると感心した。一部の参加者からは、TEM 試料作成時におけるウルトラマイクロトームの操作体験を望む声もあったが、これについては、各人に対応するには使用機器の性質上困難であろうと感じた。理想を言えばきりが無いが、全員分のガラスナイフの事前準備を行うことは主催者側の負担が大きく、参加者が使用に耐えうるガラスナイフを作成することは、熟練を要する作業のために難しいと考えられる。また、TEMにおける観察に使用する超薄切片を切り出すダイヤモンドナイフは、非常に高価かつ精密な製品のため素人に利用させることは無理だと思われた。

【土橋】 全体講義は岡山大学の管理運営が題材で

あったが、広島大学と比較し参考にできるお話であったように思う。分野別講義「Rhinocerosによる3Dモデリング入門」（全9名）では、各大学（山口大学、鳥取大学、徳山工業高等専門学校等）と協力して3D作成に取り組むことができ、技術交流・意見交換・各大学の状況等がわかり有意義な時間であった。今後の業務に反映させていきたい。

【岡本】「創造実験・実習」は10名で、午前中は材料力学、午後は流体力学について実験をした。内容は、実際の講義で行っている内容を短縮したもので、学生時代を思い出しながら楽しくできた。また、普段の仕事とは違うことだったので、新鮮な気持ちで取り組めた。今回習得した知や技術を、業務に生かしていきたいと思います。

【岩崎】 全体講義では、幅広い内容が取り上げられていたため、全てにおいて理解はできなかつた。しかし講師の方々が体系的に工夫して発表されたおかげで、自分の仕事には直接かかわりのない分野でも興味や考え方は深まり、他の分野にも目を向ける良い機会となった。特に屋上緑化とパソコンの仕組みについての講義は分かり易く、かなり効率よく知識が広がった。分野別の講義・実習では、TEM・SEMの装置を仕組みから教わり、実際に操作することで具体的にどういったことができるのか等、イメージをつかむことができた。全体を通して、すべての内容が新鮮であり、他の技術職員の方々とも知り合いになることができ、非常に有意義な研修であった。

【桂】 今回の研修に参加するにあたり、私は電子顕微鏡を見ること自体初めてでしたので大変楽しみにしておりました。実際、研修では初心者向けに講義や実習が進められていたということもあり、電子顕微鏡の原理や試料作製方法等、大変理解しやすいものでした。時間等の関係で、思っていたより電子顕微鏡にさわることができなかつたことが心残りではありますが、研修全体を通して非常に有意義で、いい経験になりました。今回学んだことを今後の業務に活かしていけたらと思います。

(おわりに)

コース別実習の概略を我々に理解できるよう可能な限り工夫し、多大な労力を割いて頂いた、主催者の岡山大学のスタッフに感謝の意を表します。

第21回情報処理センター等担当者技術研究会参加報告

勇木 義則 (技術副統括)

吉田 朋彦 (情報部門)

原 憲行 (情報部門)

1. はじめに (目的等)

この研究会は、全国の大学法人の情報処理センター等の担当職員が、システムの運用管理や最新の技術に関する研究発表、情報交換を行うことを目的とした、数少ない研究会である。可能な限り参加し、積極的に本学の情報を提供し、また同時に、他大学の運用を参考にしたいと考えている。

今回は HINET2007の移行完了に関して、本研究会で経緯を報告・発表した。さらに、主に他大学におけるサーバ管理、ネットワークリスク管理の現状と対策を知る目的で参加した。

2. 期間・場所・参加者等

- ・平成21年9月3～4日
- ・熊本大学黒髪南キャンパス (熊本市)
- ・大学等の情報処理センター系担当者 (60名)

3. 研修内容

「学内 LAN の全移行報告」というタイトルで、吉田技術班長が HINET2007の移行状況等について報告し、考察を加えた。

また、他の大学からの発表として、多く見受けられた話題に、下記のようなものがあった。

- ・サーバの脆弱性診断とその問題点について
- ・サーバ監視ツールの試験的導入とその検証
- ・迷惑メール対策について、技術標準に則った簡易的なものと、商用製品による本格的なもの
- ・CMS 導入における指針
- ・端末室の運用に関して、特に印刷関係など
- ・センターの入館に関するセキュリティ
- ・学内の他の部局の情報システム導入についてど

う関わるか

- ・技術職員の後継者育成

4. まとめと感想

【吉田】自身の発表については、全学的な規模での認証ネットワークの運用はまだ例がほとんど無く、学内ユーザの反応や認証の負荷問題等についての質問を受けた。来年度以降、運用が軌道に乗った時点で、また状況を報告してみたいと思う。端末室の印刷に関してはいずれの大学も苦慮していることがうかがえた。本学のように枚数制限をしたり、課金したり、生協との協力体制を模索しているところが多いようである。次期のシステムでは本学も何らかの対応が必須であろう。建物を含めたセキュリティ対策も、共通の話題となった。全学的な問題ではあるが、機材の多いセンターは苦勞しているところが多いようである。学内の他の部署が情報システム等を導入する際、全学的な統一性や保守性の確保のためにセンターと強調すべきであるとの発表は興味深いものであった。ルールとして明文化している大学もあり、感心した。

【原】迷惑メールへの対応策はいくつかあるが、どのような方法を採用するかをの基準として、コストやサーバ負荷だけでなく、メールサービス利用者が許容する誤判定率を考慮するべきという話は興味深かった。特にインターネット標準に準じたフィルタリングの話には、自身が迷惑メールの送信元と誤認識されないためにも技術標準をよく学んでおくべきだと感じた。Web サービスのパスワード一元化は、各大学でも慎重に行っているようである。パスワード管理をはじめとするセキュリティ意識の向上が必須であるため、どのように理解を推し進めていくかも課題となる。

LAN・施工評価とルーティング技術受講報告

寸田 祐樹 (情報部門)

1. はじめに (目的等)

以前に受講したNIIの研修では、Windows PCをルータとして動作させる実習を行った。しかし、

実際には専用のルータ機器を設置することの方が
多い。そこで、ルータ機器を用いたネットワーク
構築の実習を行う本訓練コースを受講し、LAN
の物理的な知識と共にルータ機器の設定方法を学
び、より実践的な技術の向上を目指す。

2. 期間・場所・参加者等

- ・平成21年9月8～10日
- ・広島職業能力開発促進センター（広島市）
- ・企業等においてネットワークシステム構築に関
する業務に従事する者（5名）

3. 研修内容

LAN の概要に関する幅広い内容であったが、
主要なものを以下に挙げる。

- ・Ethernet の規格や仕様について
- ・ネットワークにおいてクラスレスを導入した
CIDR の考え方について
- ・LAN の中継装置、伝送媒体について
- ・UTP ケーブル（カテゴリ5e、ストレート）の作
成
- ・ルーティングとルーティングプロトコルについ
て
- ・Cisco ルータを用いたネットワーク構築（static
ルーティング、dynamic ルーティング）

4. まとめと感想

本訓練コースは TCP/IP モデルの下位層に重点
を置いており、UTP ケーブルの作成と共に
Ethernet の規格や仕様を詳しく学ぶことができ
た。また、Cisco 1712ルータを用いた実習では、
小規模なネットワークでルーティングテーブルを
作成し、パケットが通ることを確認した。

今回の受講によって、以前より実践的な技術を
習得することができたように思う。この知識を
ネットワーク構築だけでなく、障害場所の特定等
にも応用していきたい。

Linux システム運用実践受講報告

開内 幸治（情報部門）

1. はじめに（目的等）

システム障害時の復旧作業に要する時間は経験

の差で大幅に異なる。経験が無いと問題の切り分
けができず自力での復旧が困難になる。

トラブル対応時に必要な知識、対処法を習得す
るため、本講習会に参加した。

2. 期間・場所・参加者等

- ・平成21年9月9～11日
- ・富士通ラーニングメディア 九州ラーニングセ
ンター（福岡市）
- ・大学や一般企業で Linux システムの運用管理を
担当する者（4名）

3. 研修内容

イントロダクションとして運用管理作業の概要
についての説明後、パフォーマンス管理（性能情
報収集、CPU、メモリ、入出力、ネットワーク、
チューニング）、ログ管理（ログファイル、ログロー
テーション、ログの一元管理）、トラブルシュー
ティング（手順と注意点、障害の分類、実機を用
いた復旧作業）について実習を行った。

4. まとめと感想

1日目にパフォーマンス管理、2日目にログ管理
とトラブルシューティングについて、座学と実機
（OS：Red Hat Enterprise Linux）を用いた演習を
行った。今まではパフォーマンス管理の重要性を
あまり認識していなかったので興味深かった。ま
た、ログ管理についてはログファイルの簡単な説
明、ログのバックアップ、ログの一元管理方法に
ついての説明があり、必要性を再認識できたこと
が良かった。トラブルシューティングについては
用意されたスクリプトを実行することで擬似的ト
ラブルを発生させ、その復旧を行った。内容はネッ
トワーク関係（4件）、システム関係（起動しない
トラブル5件）であった。ネットワーク関係は復
旧できたがシステム関係はあまり経験がないため
かなり苦勞をし、良い経験ができた。知らなかつ
た復旧方法もあり、大変有意義な講習会でした。

実際の業務で扱う OS は異なるディストリ
ビューションであるため、講習会で得た知識を活
用できるように実機で再度確認をしたいと思う。

第9回放牧サミット参加報告

積山 嘉昌（フィールド科学系部門）

1. はじめに（目的等）

放牧は輸入飼料依存から脱却し飼料基盤に立脚した循環型畜産を実現する手段として行われている。全国各地において水田や耕作放棄地等を活用した放牧、酪農の集約放牧等、様々な放牧の取り組みが進められており、これらの取り組みが地域農業、さらには地域社会の維持、活性化にも寄与している。

今回、一般的な知識や新たな専門知識を習得するために、本講演会に参加した。

2. 期間・場所・参加者等

- ・平成21年9月16～17日
- ・いわて県民情報交流センター（盛岡市）
- ・参加者：309名

3. 研修内容

[1日目] 講演会、パネルディスカッション

(1) 講演

- ・「放牧畜産の取り組みと地域活性化」
- ・「放牧畜産物認証制度について」

(2) 事例発表

- ・「急速に拡大!! いわての放牧」
～岩手県一関地域の放牧推進の取り組み～
- ・「相の沢牧野、ゼロからの取り組み」
～集約放牧による草地管理と経営の改善～
- ・「日本短角種の高付加価値化の取り組み」
～放牧と粗飼料による高付加価値化～

[2日目] 現地検討会：集落営農～里山放牧コース（一関市）

(1) 大平地域営農活性化組合

(2) 須川営農集

4. まとめと感想

地域性があると思われるが、水田や耕作放棄地の放牧を行うのに牛の脱柵や臭い等、地域からの苦情が一切無いのには驚かされた。地域が一体になって行っているのを強く感じた。また、耕作放棄地の管理方法や、広範囲を電柵等で囲うのに安価にできる方法が学べた。今回学んだことを、当

農場の放牧地の管理に活かし今後につなげていきたい。

第1種衛生管理者資格試験受験報告

仲井 敏（フィールド科学系部門）

1. はじめに（目的等）

本資格取得は学部の安全管理委員会からの依頼である。部局の安全管理に関する業務の軽減を図るために安全管理者を増員するというのが今回の目的であろう。

2. 期間・場所

- ・平成21年10月21日
- ・中国四国安全衛生技術センター（福山市）

3. 試験内容

計44問（下記の通り）。

- ・関係法令（有害業務にかかわるもの）：10問
- ・労働衛生（有害業務にかかわるもの）：10問
- ・関係法令（有害業務にかかわるもの以外のもの）：7問
- ・労働衛生（有害業務にかかわるもの以外のもの）：7問
- ・労働生理：10問

4. まとめと感想

法令は解釈も難しいが、何より厄介なのは、自分の持つ情報や言葉をもとに解答すれば、ほとんど点を取られない。つまり類義語は誤答となってしまうのだ。そんなのは几帳面な人間か専門家に任せておくのが良いので今回は特に覚えることをせず、購入した過去の問題にざっと目を通して、出題傾向を確認して、その上で新しい順に公開問題を2年分だけ解くという学習方法を用いた。それプラス過日受講した第1種衛生管理者試験準備講習で得た情報も携えて試験に臨んだ。その成果もあって、まずまずの点は取られたと思う。ただし、報告している今このときには合否は判定していないので、不合格だと赤面の至りなのだが、あくまで受験後の感想である。

第27回献体実務担当者研修会／第7回解剖・組織技術研究・研修会参加報告

中谷 宣弘 (医学系部門)

1. はじめに (目的等)

「献体実務担当者研修会」は全国の献体処置に携わる職員(教員, 技術員, 事務員)が参集し, 実務を行う上での問題点, 改善方法について意見交換を行う会であり, 「解剖・組織技術研究会」はそれに即した形で主に技術員が集まって現場での問題点等について発表し, 意見交換をする場である。これらに参加し, 献体処置に関する情報を得て, 本学での問題点について提起することを目的とした。

2. 期間・場所・参加者等

[献体実務担当者研修会]

- ・平成21年11月6日
- ・明海大学浦安キャンパス (浦安市)
- ・献体処置に携わる教員・技術員・事務員 (約130名)

[解剖・組織技術研究会]

- ・平成21年11月7日
- ・東京医科歯科大学 (文京区)
- ・献体処置に携わる技術員 (約40名)

3. 研修内容

[献体実務担当者研修会]

今回は, 「臨床医学に役立てる人体解剖についての課題」として各種講演が行われた。現在は基礎医学のみにおいて行われている人体解剖を臨床にも広げられないかといった討論がなされた。

[解剖・組織技術研究会]

今回は, ご遺体の処置法に関しての全国的なマニュアル化とホルマリン対策について, 解剖承諾書の取り扱いについての討論会が開催された。

4. まとめと感想

[献体実務担当者研修会]

臨床教育での人体解剖の有用性と倫理的問題について様々な立場の方で討論が行われた。難しい問題であり結論には至らなかったが, 今後の展開に大きな興味が湧いた。

[解剖・組織技術研究会]

3つの討論会共に活発な意見が出され, 多くの報告を受けた。私も本学での実習室改修に関する概要の説明, マニュアル化に関する発表を行い, 承諾書取り扱いに関する討論会では座長を勤めさせて頂き, 貴重な情報が得られたと共に大きな経験も得られた。

平成21年度主任者部会年次大会 (第50回放射線管理研修会) 設立50周年記念大会参加報告

寺元 浩昭 (環境管理部門)

1. はじめに (目的等)

全国の放射線取扱主任者が集まる大会であり, 相互に交流を深めることにより放射線管理における多くの情報を得て, より一層の自施設の管理レベル向上を目指して参加した。また, 先頃 (平成21年10月) 文部科学省より通知のあった, 管理下に無い放射性同位元素等の一斉点検に関する情報, 放射線障害防止法施行規則の改正についての注意点, 対応等の詳細についての情報を得ることを主な目的とした。

2. 期間・場所・参加者等

- ・平成21年11月12～13日
- ・タワーホール船堀 (江戸川区)
- ・全国の放射線取扱主任者等 (400名程度)

3. 研修内容

- ・文部科学省科学技術・学術政策局原子力安全課放射線規制室長 中矢隆夫氏による特別講演「最近の放射線安全管理行政について」
- ・グループ別討論会「放射線管理のノウハウ」
- ・日本アイソトープ協会 有馬朗人氏による特別講演「放射線, 放射能についての教育」
- ・50周年記念シンポジウム「主任者の危機管理」
- ・50周年記念講演 (3演題)
- ・平成基礎科学財団理事長・東京大学特別栄誉教授 小柴昌俊氏による特別講演「宇宙・人間・素粒子」
- ・ポスター発表, ポスター展示, 機器展示, その他展示等

4. まとめと感想

今回の大会では、放射線障害防止法施行規則の改正について、今後の実務における注意点等を詳細に聞くことができ、参考になった。グループ別討論では全国の放射線施設の主任者同士で施設の現状、問題点、疑問点等を討論し、解決策を見出したり、問題点の整理をすることができた。その他に、近年話題になることの多くなった放射線施設のセキュリティ問題を含む危機管理に関するシンポジウムが行われた。その中で、リスクマネジメントについての講演もあり、情報の収集、分析、対策の立案等、具体的に組織においてどのようにして体制を確立していくか、というような細かな話題があり、興味深く聞くことができた。さらに、ポスター発表では日常の管理に密接した内容のものもあり、今後の業務を行っていく上で参考になった。また、2件の特別講演も大変素晴らしい内容であった。

平成21年度平準化18間接検定選抜種雄牛展示会／和牛改良講演会参加報告

山城 英和 (フィールド科学系部門)

積山 嘉昌 (フィールド科学系部門)

1. はじめに (目的等)

畜産業界にも不況の影響が大きく出ている。市場動向や新たに始めている種雄牛の能力等、意見交換を深め、新しい情報を得るために参加した。

2. 期間・場所・参加者等

- ・平成21年11月30日
- ・岡山種雄牛センター、津山文化センター (津山市)
- ・参加者：各県農協・試験場・和牛改良組合等

3. 研修内容

[第1部：平準化18間接検定選抜種雄牛展示会]

- ・P黒214 福栄：サシが強く、ロース芯面積、バラの厚みに富み、十分な枝肉重量が特徴。
- ・P黒602 福安照：福栄の子で肋張りに優れているが、体高の伸びが劣る。
- ・P黒687 菊美津照：気高系に付けることが望ま

しい。またF1にも推奨している。

- ・P黒684 安久照：F1にも推奨している。菊美津照、安久照とも資質に優れオレイン酸が高いので、美味しい。
- ・P黒421 北湖2：皮下脂肪が薄く、もも抜けが良い (サシが入りやすい)。
- ・P黒619 茂花国：質・量ともにバランスがとれている。
- ・P黒478 藤平茂：質・量ともに優れている。兵庫系に付けることが望ましい。

[第2部：和牛改良講演会]

- (1) 情勢
- (2) 事業団種湯牛動向 (繁殖)
- (3) 全国和牛種雄牛動向 (繁殖)
- (4) 全国和牛種雄牛動向 (肥育)
- (5) 繁殖牛管の要点
- (6) 肥育技術について
- (7) 最新種雄牛動向
- (8) 理想交配

4. まとめと感想

福栄は1年に1回しか一般公開されないため、貴重なものが見ることができた。講演会では18間検の牛の情報を知ることができた。全国の種雄牛のことや交配、管理のことが学べた。また、使われている牛、人気のある牛が各県によって個体差があるので、市場観察を引き続き行って情報を集め、今後の農場管理に活かしたい。

日本放射線安全管理学会 第8回学術大会参加報告

寺元 浩昭 (環境管理部門)

笹谷 晋吾 (環境管理部門)

1. はじめに (目的等)

日本放射線安全管理学会は、日本中の放射線管理に関わる人間が新しい放射線安全管理に関する知見や試み等について研究発表等が行われており、発表や議論を通して管理実務に直接関係のある最新の研究成果を知り、放射線管理に携わる研究者等と交流を行うことのできる数少ない場である。今回は、各地の放射線施設で行われている法

規制にかかわる手続きの新たな試み等についても発表があり、講演、交流を通じて情報収集を行い、今後の業務に生かすことを目的として参加した。

2. 期間・場所・参加者等

- ・平成21年12月2～4日
- ・長崎大学医学部記念講堂、良順会館（長崎市）
- ・全国の放射線施設管理業務従事者等（280名）

3. 研修内容

最近の放射線安全行政の動向及び放射線障害防止法の観点から、安全管理の徹底、放射性物質の湧き出しや盗難、RI廃棄物のクリアランス、現在試行されている線源登録管理制度の現状、問題点等について文部科学省の担当官から講演があった。また、心理学の手法を用いた効果的な放射線教育の方法から長崎大学グローバルCOEプログラム共催のシンポジウムとして放射線リスク制御の国際戦略まで3日間を通して幅広い観点から最先端の放射線管理について報告された。

なお、大会プログラムは以下の通り。

- ・特別講演「放射線リスク認知」（同志社大心理学部 中谷内一也氏）
- ・特別講演「最近の安全規制の動向及びRI使用事業所における放射線管理の状況について」（文部科学省科学技術・学術政策局原子力安全課放射線規制室 中矢隆夫氏）
- ・企画セッション「アドホック委員会報告－放射性ヨウ素安全取扱法の標準化に向けて」
- ・企画セッション「急速に動き始めたクリアランスの動向」
- ・国際シンポジウム「放射線健康リスク制御の国際戦略」
- ・平成20年度学会賞受賞講演
- ・口頭発表セッション、ポスターセッション 他

4. まとめと感想

【寺元】 特別講演や企画セッション等は、放射線管理の分野において最近非常に興味を持たれている内容で、今後の管理業務を行う上でとても参考になった。また、口頭発表、ポスター発表においては非常に幅広く、日常管理における事例報告や

技術的な研究、放射線測定器の開発、種々の線量測定技術に関する方向等多岐に渡っており、非常に興味深く聞くことができた。これらの中で放射線（施設）管理に関する発表を中心に聞いたが、トリチウムベータ線の簡便な検出の試みに関する発表やプラスチックシンチレータを用いたスミア試料の測定法に関する発表等、管理測定技術の大きな向上につながる発表もあった。その他にも、日常管理で参考になる事例報告等もあり、今後の業務に生かしていきたい。

【笹谷】 心理学の側面から、（放射線）リスク認知の過程を科学的に説明した講演が一番印象深かった。普段なにげない生活を送る中で人はどのようにして情報を認識していくのか、このような心理学的要素を織り込んだ放射線教育を行えば、より効果的な教育訓練が行うことができるのではないかと感じた。また、文部科学省放射線規制室の担当官から現在進められている放射性物質の湧き出し調査やRI廃棄物のクリアランス等の途中経過や問題点等についての講演があり、今回得られた情報を反映していきたい。今後は今回の研修の内容を周知して、より一層放射線施設における安全管理能力の向上に努めていきたい。

平成21年度中国・四国地区国立大学法人等労働安全衛生協議会参加報告

清水 高（環境管理部門）

坂下 英樹（環境管理部門）

1. はじめに（目的等）

本協議会は、国立大学法人等の安全衛生管理を担当する者が、職務上の諸問題について研究協議を行うことにより、安全衛生管理に関する能力の一層の向上を図ることを目的に開催されている。安全衛生に関する講演聴講や、分科会のグループ討議に参加することにより、広く他大学の安全衛生管理の情報交換を行い、その経験と知識を業務の遂行に役立てることを目的とする。

2. 期間・場所・参加者等

- ・平成21年12月3～4日

- ・広島ガーデンパレス（広島市）
- ・国立大学法人等の安全衛生管理担当者（68名）

3. 研修内容

[1日目] 「大阪大学の安全衛生管理の課題と現状について」の講演，中国・四国大学等からの現状報告として本学の「安全管理」，「健康・衛生管理」についての報告，および全体討議が行われた。講演内容は大阪大学の安全衛生管理体制と安全衛生活動および事故事例，今後の全国的な安全衛生管理活動の動きが主な内容であった。

[2日目] 6班に分かれての分科会（テーマ別のグループ討議）とその分科会の発表が行われた。

【清水】「安全衛生活動のマンネリ化について」のテーマに参加し，各大学・高専の現状や問題点について意見交換を行った。

【坂下】「化学物質管理の課題」に参加した。

4. まとめと感想

【清水】 この協議会は国立大学が法人化後発足し今回で第6回目の開催である。歴史は浅くはあるが，主催者の安全衛生管理に関する思いは熱く感じられた。大阪大学の安全衛生管理体制は，専任教員2名（教授1，助教1），兼任教員5名，特任研究員3名，事務5名等で構成された安全衛生管理部を中心に構成されており，様々な工夫をした取り組みは大変参考になった。他方で，予算規模の小さい高専や文系の学部ではマンネリ化が懸念されているが，本学の文系部局も同様であろう。今後は中・四国の国立大学・高専等において成果の情報交流を活発に行い，学長の意識改革を起こすべく活動を推進するようである。この協議会の今後の活動に注目し，業務に活用すべく情報交換会等に積極的に参加していきたい。

【坂下】 大阪大学では，講習が充実しており，情報共有も進んでいると感じた。また，安全衛生管理から次の段階であるリスク管理へと進んでいることが印象的であった。化学物質管理の課題の討議では，薬品管理システムの導入の有無にかかわらず管理が行われることが重要であること，導入しても現場のやる気が必要であること，多額の費

用が問題であることがポイントとして整理された。今後は，市販のシステムに頼らない方法の模索が必要であること，防災管理の観点から危険物マップ等の作成が必要であることが話し合われた。今回得られた情報には進んだ取り組みや有用な情報が多く含まれていたため，今後の職務に役立てていきたい。

平成21年度放射線安全管理講習会受講報告

木庭 亮二（環境管理部門）

1. はじめに（目的等）

放射線施設の管理には法令の遵守が必須であり，その改正情報や国際動向についての情報の収集が重要となる。今回参加する講習会では最新の法令改正情報や今後の動向等について文部科学省担当官の講演があり，今後の管理について情報を収集するために参加した。

2. 期間・場所・参加者等

- ・平成21年12月8日
- ・KKR ホテル広島（広島市）
- ・放射線施設を有する事業所の管理担当者等（50名程度）

3. 研修内容

文部科学省担当官による講演「最近の放射線安全行政の動向について」に始まり，法令に適合した記録の作成や施設の変更申請についての講演を受講した。

4. まとめと感想

最新の法令改正情報や，平成21年10月に文部科学省より通知のあった管理下に無い放射性同位元素等の一斉点検についての情報を得ることができた。また，放射線施設の管理の際に実務として生ずる，放射性同位元素についての記帳・記録について，文部科学省の推奨する記録の管理について情報を得られ，非常に参考になった。今回得られた情報は，法令改正等に伴い管理をする上で必要なことが多く含まれたため，今後の放射線施設管理に有用なものであったと感じた。

玉掛け技能講習・クレーン運転特別教育併合講習 受講報告

北村 亜紀（フィールド科学系部門）

三保 和之（フィールド科学系部門）

石飛 義明（工作部門）

浅田 竜也（工作部門）

1. はじめに（目的等）

附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター（西条ステーション）では、濃厚飼料の補給・運搬等の業務の際にクレーンを使用する。

また、工作部門の依頼工作および保守管理業務においても、重量物の移動にはクレーンを使用している。

クレーンを使用する作業には、労働安全衛生法により「玉掛け技能講習」および「クレーン運転業務特別教育」を受講しなければならない。そこで、適切な知識や技能を修得して安全かつ円滑に業務を行うべく資格取得を目指すため、これらの併合講習を受講した。

2. 期間・場所・参加者等

4名ともに、場所は下記の通り。

- ・学科講習：中特会館（広島市）
- ・実技講習：三菱重工業 機械・鉄構事業本部 機械事業部（広島市）

【北村，三保】

- ・平成21年12月11～13日

【石飛，浅田】

- ・平成22年1月15～17日

3. 研修内容

2日目の学科試験および3日目の実技試験により、可否を判断する。

[1～2日目] 学科講習および学科試験：クレーン等に関する知識，力学に関する知識，原動機および電気に関する知識，玉掛け方法，関係法令

[3日目] 実技講習および実技試験：合図の方法，玉掛けの方法，クレーンの運転

4. まとめと感想

【北村】 クレーン操作および玉掛け作業は重大事故を起こしやすい業務である。作業前点検や使用

具の確認・整備，吊り荷の安定の確認等に留意し作業にあたる事が事故防止につながる注意点であるが，人が操作する作業であるため，緊密な連携を取り確実に人の安全が確認できない限り作業を進めてはならないことを痛感した。今回の講習で学んだことを活かし，労働災害の防止に努め，業務に従事したいと思う。

【三保】 クレーンや揚貨装置等の荷役運搬機械は物流における重要な機械装置で，作業の合理化・省力化に大きく寄与していますがクレーン等の労働災害は多く発生しておりその1/3が玉掛け作業に関連するものです。今回は併合講習会であり，本来の講習時間より短いため，より集中して受講し，また講習が終了した後でも，仕事や現場での安全と点検・整備をしっかり行い安全に気を配り，玉掛け作業を行ってくださいと強く講師に言われ，最大限努力しようと思いました。

【石飛，浅田】 クレーン作業・玉掛け作業は事故を起こすと極めて重大な災害になる場合が多く，作業には安全確保と慎重さが求められる。実技試験では特に安全な作業について指導があった。今回の講習を今後の業務に生かしていきたいと思えます。

クレーン運転業務特別教育受講報告

平松 正太郎（理工学系部門）

山口 哲平（フィールド科学系部門）

田中 明良（フィールド科学系部門）

村中 正志（工作部門）

1. はじめに（目的等）

工学研究科実験棟では，実験機材や実験材料の運搬に，吊り上げ荷重5t未満のクレーンを使用することがある。

また，附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター（西条ステーション）では，飼料の補給・運搬等に，吊り上げ荷重1t以上のクレーンを使用する。

さらに，工作部門の依頼工作および保守管理業務での重量物の取り扱いでは，吊り上げ荷重1t以

上のクレーンを使用して、吊り上げ作業を行っている。

これらのクレーンを使用する作業には、労働安全衛生法によりクレーン運転業務特別教育を受講しなければならない。そこで、適切な知識や技能を修得して安全かつ円滑に業務を行うべく資格取得を目指すため、この度受講した。

2. 期間・場所・参加者等

4名ともに、場所は下記の通り。

- ・学科講習：広島市林業ビル（広島市）
- ・実技講習：本学内の各事業所において実施

【平松，山口，田中】

- ・学科講習：平成21年12月15～16日（参加者：20名程度）
- ・実技講習（平松技術員）：平成21年12月17～18日（実技指導者：下川久義技術専門職員）

【村中】

- ・学科講習：平成22年2月18～19日（参加者：44名）
- ・実技講習：平成22年2月23～24日（実技指導者：石原正文技術長）

3. 研修内容

[1～2日目] 学科講習および学科試験：クレーンに関する知識，クレーンの取り扱い，原動機および電気に関する知識，力学に関する知識，関係法令等

[各事業所] 実技教育：合図の方法，クレーンの点検方法，クレーンの運転

4. まとめと感想

【平松】 今回の講習ではクレーンに関する基本的な知識が主だった話であったが、特に印象に残ったのは常日頃の「点検」の重要性だった。毎日のように使っていると点検作業が煩わしく感じてくるが、重量物を移動させるクレーン運転業務では、1つの事故が即重大事故につながる作業である。自分自身はもちろんのこと、教員や学生の安全を確保するためにも、日頃の点検を怠ること無く、業務に従事したい。

【山口】 今回の特別教育講習では、学科講習受講後に、実技教育は当ステーションで受講する形に

なっており、実際に操作する場合は先輩技術員の指導を受けながら操作する必要がある。また、今回の講習でも日頃からの日常点検や安全に対する心構えが重要であると感じた。

【田中】 クレーン等は運搬荷役においてとても重要な機械装置で、作業の合理化・省力化に大きく寄与していますが、クレーン等を利用した作業における災害の発生は依然として後を絶たない状況にあります。そのため、災害を防止し作業を安全に行うためには知識と技術を身に付けておくことが不可欠です。今回の講習では、作業時の安全の心得や作業開始前の点検・整備について、何度も指摘された部分でした。また、クレーンが十分に機能を発揮し安全に作業が行えるようクレーンの特性や管理方法も学ぶことができました。今後は、点検・整備・安全確認をしっかりと行い、最大限安全に気を配り、作業を行っていきたいと思いました。

【村中】 今回の特別教育講習を受講して、講師の方がクレーンのフックの開口部が2mm以上変形すると確実に折れることや、定格荷重3t以上は2年ごとの検査を絶対切らしてはいけない訳等、テキストに無い項目を学び参考になった。今回の講習で習得した知識・技能を活用して、災害の無い職場環境を目指したい。

刈払機取扱作業安全衛生教育受講報告

三保 和之（フィールド科学系部門）
寺尾 裕美（フィールド科学系部門）
山口 哲平（フィールド科学系部門）
田中 明良（フィールド科学系部門）

1. はじめに（目的等）

附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター（西条ステーション）では、農場内の美化活動や圃場周辺のけい畔および施設周辺の除草作業等の草刈作業に刈払機を使用する。刈払機による作業は、立ち姿勢や歩行、機械の運搬を伴い、転倒や刈刃の跳ね返り等により刈刃に接触した災害が多く発生していることから、適切な取り扱いが求め

られている。

刈払機を使用する際に、労働者の安全、健康そして快適な作業環境の形成を促進することを目的に、労働安全衛生法により安全衛生教育を受講するよう定められている。そこで今回、適切な知識や技能を修得して安全かつ円滑に業務を行うため、本講習を受講した。

2. 期間・場所・参加者等

4名ともに、場所は下記の通り。

- ・キャタピラー教習所中国教習センター
広島教習所（広島市）

【三保，寺尾】

- ・平成22年1月13日
- ・受講者：3名

【山口，田中】

- ・平成22年2月11日
- ・受講者：9名

3. 研修内容

午前は、刈払機に対する基本知識、刈払機を使用する作業に関する知識、刈払機の日常の点検・整備に関する知識を中心とした講習を受け、午後には、主に振動障害に着目した作業時における留意点や関係法令等を学んだ。

4. まとめと感想

【三保】 刈払機による作業は振動による障害や転倒、刈刃の跳ね返り（キックバック）等により、刈刃に接触した災害が多く発生している。また、自分だけでなく、他の作業員等に接触しての事故も同様に災害が多い。刈払機の適切な取り扱い方法を学んだことにより、労働災害の防止に役立て、安全に刈払機による作業に従事していきたい。

【寺尾】 刈払機を使用した業務での事故が多いことを知り、簡便な機器であっても適切な使用を心掛けることが重要であると感じた。また、刈払機の作業のみならず夏季における熱中症の予防および害虫予防に対する基礎知識も学ぶことができ、安全衛生に対する意識の向上につながったと考えられた。今回の講習で学んだことを今後の業務に生かし、作業中の事故防止に努めて

いきたいと思う。

【山口】 今回の安全衛生教育講習では、学科講習のみであったので、整備や点検の方法等、刈払機に関する知識についての指導を受けた。刈払機は安価でシンプルな構造をしているので、安全対策を行えば取り扱いやすい機械であると言える。刈払機による事故では、不安定な場所での転倒やキックバック等による刈刃の接触によって、裂傷事故が最も多く、注意が必要であると感じた。また、当農場でも夏場に刈払機を使用することが多く、スズメバチやマムシ等の害虫対策も必要で、害虫は気をつけていても遭遇する危険があるので、遭遇した場合は慌てず行動する必要があると感じた。

【田中】 今回の講習では、刈払機の取り扱い方法や整備方法・労働災害の予防方法について指摘を受けました。刈払機は美化活動や雑草の刈り取りをするためにおいてとても重要な作業機械ですが、作業における災害の発生は非常に多く発生しており、依然として後を絶たない状況にあります。そのため、災害を防止し作業を安全に行うためには知識と技術を身に付け、今後は、点検・整備・安全確認をしっかりと行い、最大限安全に気を配り、作業を行っていききたいと思います。

酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習受講報告

木原 真司（フィールド科学系部門）

山口 哲平（フィールド科学系部門）

1. はじめに（目的等）

附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター（西条ステーション）では、飼料を保管する施設としてタワー型サイロがあり、場内で発生した汚水等を浄化し環境に還元する装置を有しているが、その装置の取り扱い時において酸素欠乏および硫化水素が発生する恐れのある場所として定められている（労働安全衛生法施行令別表第6）。これらは生命をも左右する危険な要素であり、適切な知識や技能を修得して安全かつ円滑に業務を行

うため、本講習を受講した。

2. 期間・場所・参加者等

- ・平成22年1月19～21日
- ・広島市林業ビル（広島市）
- ・受講者：約60名

3. 研修内容

[1日目]

- ・学科講習（酸素欠乏症等の病理と症状，酸素欠乏および硫化水素発生の原因）

[2日目]

- ・学科講習（保護具）
- ・実技講習（測定方法，応急処置）
- ・実技試験

[3日目]

- ・学科講習（関係法令）
- ・学科試験

4. まとめと感想

【木原】 酸素欠乏および硫化水素の高濃度な作業場は非常に危険であり，作業者の死亡例も数多く報告されている。また，事故者を発見した際にも相応の対処が必要であり，間違った知識では事故者を増やす結果にしかならない。そのように今回の講習で学んだことを念頭に置き，安全第一で作業に携わっていきたいと思う。

【山口】 今回の技能講習では，講師が医師，環境アセスメントを行う技術者の方等，幅広い分野の専門家の方から講義を受けた。酸素欠乏症等による災害において特に気を付けなければいけないのは，酸素欠乏状態であることを発見するためには，人間の感覚では判断できず，気付いたときにはもう意識が無いという状況に陥ってしまう。そのためには，まず酸素欠乏状態が発生しやすい場所を理解し，ガス検知機器による測定を行う等，酸素欠乏に関する知識の必要性を感じた。知識の無いままであると，何の装備の無いまま酸素欠乏状態箇所に立ち入ってしまい，酸素欠乏災害を巻き起こす危険がある。また，今回の講習でも日頃からの日常点検や安全に対する心構えが重要であり，事故を起こさないことが大切であるが，起こって

しまったときに対する対処についても考えておく必要があると感じた。

チェーンソー（70cm以上の伐木等業務に関する） 特別教育受講報告

岩崎 貞治（フィールド科学系部門）

木原 真司（フィールド科学系部門）

山口 哲平（フィールド科学系部門）

1. はじめに（目的等）

附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センターの竹原ステーションには，西側には小高い山があり，そこを管理するために樹木の伐木を行う必要がある。

また，同センターの西条ステーション（農場）では，場内に雑木林が存在し，暴風・風化等の様々な要因で，倒木等が起こりうる環境にある。そのため，圃場周辺のけい畔および施設周辺の整備作業のため，季節的・突発的に伐木を行う必要がある。

これらの作業にチェーンソーを使用するが，それには危険が伴い，事故が発生した際には重傷を負うこともある。労働安全衛生法により，胸高直径が70cm以上の立木の伐木および20cm以上でかかり木等の処理業務を行う場合は特別教育を受講するように定められており，適切な知識や技能を修得して安全かつ円滑に業務を行うため，本講習を受講した。

2. 期間・場所・参加者等

- ・平成22年2月18～19日
- ・キャタピラー教習所中国教習センター 広島教習所（広島市）
- ・林業関係者等（約25名）

3. 研修内容

[1日目]

- ・学科講習（伐木作業に関する知識，チェーンソーに関する知識，振動障害に関する知識，関係法令）

[2日目]

- ・学科講習（目立てに関する知識）

- ・実技講習（伐木の方法，チェーンソーの操作，チェーンソーの点検および整備）

4. まとめと感想

【岩崎】 いかにも外観が似ている木であっても，根の張り方，葉の付き方，空洞の有無等において状態が違うことを常に念頭に置き，十分な準備と安全を確保した上で，確実に正確な作業を行っていくと思う。チェーンソーの仕組みはシンプルであるが整備を怠れば重大な事故を引き起こすこともあるので，今後もテキストで復習も行いながら正しい知識の定着を図っていきたいと思う。

【木原】 チェーンソーは作業中の切削位置が体に近く，わずかな手違いでキックバックを起こし大きな怪我をする恐れがある。また，正しい知識の下に作業を行わなければ，振動障害になる危険もはらんでいる。それらを防ぐため，機械整備や作業過程を疎かにしないことが大切だと感じた。

【山口】 まず驚いたのが，伐木等に関する業務では，主にチェーンソーを使用するが，チェーンソーを使用しない伐木に際しても特別教育が必要であるということである。チェーンソーは戦後に欧米から導入されたもので，日本の林業の発展に大きく貢献してきたものである。その中で，問題視されたのが振動障害による労働災害があり，現在では使用時間等により厳しく規制されている。当施設での業務においては，伐木作業より転倒木（風倒木）の処理にチェーンソーを使用することが多いので，振動障害やキックバック等の取り扱いに注意して業務を行う必要があると感じた。

アーク溶接等の業務にかかわる特別講習受講報告

土橋 誠（工作部門）

岡本 和也（工作部門）

1. はじめに（目的等）

溶接業務に関して本講習を受講しなければ取り扱うことができない。研究・教育実習等において，幅広く活用するため，本講習に参加した。

2. 期間・場所・参加者等

- ・平成22年2月23～24日

- ・学科講習：広島市林業ビル（広島市）

- ・学科講習受講者数：26名（本学2名，民間企業等24名）

- ・実技講習：本学内において実施

3. 研修内容

- ・学科教育（溶接機・溶接棒の構造，電気に関する知識，法令・安全に関する知識）
- ・実技教育（試験片への溶接訓練，立ち上がりから終了までの基本動作）

4. まとめと感想

【土橋】 本講習では，安全に関する内容が多く実際にある実例で説明されて分かりやすかった。特に皮膚・目・呼吸器に対する安全対策を怠ると，第3者または自分自身に危害を及ぼす危険性がある。特に，酸素濃度18%以下での作業は，不完全燃焼を起こすと一酸化炭素が発生する等の危険が伴う。基本・忠実を心に置き，業務に取り入れたい。

【岡本】 アーク溶接に関する基本的な知識・技術の習得ができた。電気を使用するので，アースや自動電撃防止装置の使用等，感電に注意する必要がある。それらの受講した内容を生かし，安全に配慮した業務を行いたい。

Linux 技術者認定試験 レベル1-101受験報告

落 祥弘（情報部門）

1. はじめに（目的等）

基本的な操作とシステム管理能力を習得する。研究部局支援業務対応の満足度向上・効率向上を目的とする。

2. 期間・場所・参加者等

- ・平成22年2月23日
- ・システムサポートアンドコンサルティング（広島市）
- ・一般社会人（7名）

3. 研修内容

学科試験の受験。

4. まとめと感想

本試験を受験することにより，Linux デイスト

レビューの概要、基本的なコマンド群の仕様の知識を深めることができ、部局支援業務に対して資料作成および現業務での実践反映が適宜行えた。また、受講したことにより、どのような技術スキルが必要項目であるか明確になった。今後、自己研鑽を行い、関係ある認定試験へ挑戦を行う予定である。

平成21年度機器・分析技術研究会／実験・実習技術研究会参加報告

藤高 仁（理工学系部門）

1. はじめに（目的等）

機器・分析技術研究会および実験・実習技術研究会は、各教育・研究機関の機器分析に携わる技術職員が日頃の業務の成果等を討論するものである。本研究会を通じて全国の技術職員と交流し日常の業務遂行に役立てるため出席した。また、本研究会の今後の予定を協議する地域代表者会議に出席した。

2. 期間・場所・参加者等

- ・平成22年3月4～5日
- ・琉球大学（西原市）
- ・国立大学法人・大学共同利用機関・国立高等専門学校機構等の技術職員（約560名）

3. 研修内容

琉球大学内にある大学会館にて開会式が行われ、特別講演「今沖縄からテクノイノベーション」と題して、琉球大学客員教授 直木秀夫先生のお話があった。先生は技術職員から教員へ職を移動した経歴があり、我々技術職員の必要性和技術職員自らの業務に対する心構え等をご教授頂いた。その後会場を工学部へ移し、口頭発表120件、およびポスター発表164件が行われた。

また、本研究会地域代表者会議に出席し、本研究会の開催事項について協議を行った。

4. まとめと感想

全国の学術機関に所属する技術職員が一堂に会して日頃の業務にまつわる創意工夫を聞くことができ、大変有意義であった。

担当装置についての発表も複数あり、今後の装置維持管理や測定サービスに大変役立つ情報を得ることができた。

また、地域代表者会議に参加することで、今後の研究会運用に関する有益な情報を得ることができた。

平成21年度高エネルギー加速器研究機構（KEK）技術研究会参加報告

勇木 義則（技術副統括）

村上 義博（情報部門）

三原 修（情報部門）

1. はじめに（目的等）

この研究会（総合技術研究会）は、毎年3月に開催されており、技術職員の全国大会に相当するものであるが、日常業務で携わっている広範囲な技術的研究支援活動に関する発表を中心に、他機関で勤務する技術職員との交流と技術向上を図ることが目的である。この研究会の趣旨に則り、今回は、上記の3名が本学より参加した。

2. 期間・場所・参加者等

- ・平成22年3月18～19日
- ・KEKつくばキャンパス（つくば市）
- ・大学共同利用機関および各大学・高専の技術職員（約300名）

3. 研修内容

※研究会の詳細（プログラム、報告集PDF等）は、<http://www-eng.kek.jp/meeting09/>を参照。

[1日目]

- ・特別講演「LHCプロジェクトの概要と現状」（KEK 名誉教授 近藤敬比古氏）の聴講
- ・分科会の口頭発表および聴講（このセッションの第5分科会（情報・ネットワーク技術）の中で、三原が口頭発表を行った）
- ・ポスター発表の見学

[2日目]

- ・分科会口頭発表の聴講

4. まとめと感想

今回の研究会は会場の制約から例年（大学等で

の開催)のような規模ではなかったようであるが、全国の機関から参加者があり、本学の現状について情報提供すると同時に、他機関の方との情報交換が行えたことは、今後の業務や組織のあり方を模索する上でも有意義であったと考える。

また、今回の会場が全国屈指の加速器施設ということもあり、物理学(原子核・素粒子の分野)における研究(特にCERNでの実験)の現状を知る貴重な機会でもあったと思っている。

第5回情報技術研究会参加報告

中川 敦(情報部門)

落 祥弘(情報部門)

1. はじめに(目的等)

九州工業大学にて開催される技術研究会に参加して、他大学・他機関の技術職員の動向や業務内容を知り、他の教育・研究に関する技術発表やその支援体制に関する発表を聴講し情報交換をすることにより、教育・研究支援のためのスキルアップを図って本学の技術職員としての今後のあり方について再考することを目的とした。

2. 期間・場所・参加者等

- ・平成22年3月18~19日
- ・九州工業大学飯塚キャンパス(飯塚市)
- ・大学、高等専門学校、大学共同利用機関の技術職員等(67名)

3. 研修内容

情報技術を中心とした業務で得られる技術的な知識、手法、応用例、さらには定例業務の効率化や日常的な業務の現状報告と創意工夫に関する技術発表を聴講した。また、オプションで開催された情報技術習得のための演習・実習で、プログラミング言語 Ruby の実習を受講した。

4. まとめと感想

【中川】 サーバ管理やユーザ対応等のメディアセンター業務に関する内容だけではなく、義手の開発やレーザースキャナを用いた物体計測等、様々な分野の発表があり、大いに刺激を受けた。また、本研究会は毎年情報工学部技術部により主催され

ており、技術部の構成員自身が持つ技術への自信と熱意が感じられた。この研究会で得られた情報と経験をもとに、今後の本学の技術センターの盛り上げ方について考えていきたい。

【落】 技術職員の職務において、情報技術を用いた教育・研究支援はその進歩に伴い重要度が高くなっている。本研究会は上記ニーズに対応するための知識・技術・技能の習得を目指して開催された。技術発表における支援実例は、ネットワーク構築、eラーニング、アプリケーション開発、情報インフラ実態調査等、多方面からの技術案件が寄せられ、多くの情報が得られた。また、演習により技術スキルの応用例を学んだ。得られた情報をもとに、実業務での展開を行う。

第11回解剖・組織技術研究・研修会参加報告

中谷 宣弘(医学系部門)

桂 由香理(医学系部門)

1. はじめに(目的等)

全国の献体処置に携わる技術職員で構成される本研究会は、毎年3月の全国解剖学会と同日程で研修会を開催し、技術職員同士の交流や意見交換を行っている。これに参加し、献体処置に関する情報を得ることにより、今後の業務に生かしていくことを目的とした。

2. 期間・場所・参加者等

- ・平成22年3月26~28日
- ・岩手医科大学(盛岡市)
- ・主に技術職員を中心とした献体処置に携わる大学教職員(約50名)

3. 研修内容

3月27日午前から会場準備を行い、午後から開催。岡山大学 大塚教授の教育講演に続いて技術職員から計5演題の発表があった。その後全体討論の時間が設けられ、業務に関する身近な話題をテーマに多くの意見が交わされた。

また、中谷技術班長は同会の会計幹事を担当しており、前日(26日)は研修会の打ち合わせ会議にも出席した。

4. まとめと感想

【中谷】 教育講演では上皮細胞の基底膜に関する興味深い話が聞けた。5つの演題発表では、大学での献体処置の紹介から、環境測定報告書の見方、コンピューターを駆使したバーチャル組織像や3D画像作成の紹介まで非常に多岐に渡るテーマでの発表があり、大変興味深く聞け、大いに参考になった。最後の全体討論では、時間切れで予定されていたテーマすべてについての討論は残念ながらできなかったが、それほど多くの大学から活発な意見や質問が交わされた。私も改修後の広島大学での作業環境について簡単ではあるが発表を行った。本会は同職種の技術職員の全国的な会であり、必然的に毎回非常に身近な話題を元に研修会が構成される。今後も引き続きこれに参加し、本学での業務に役立てていきたいと考えている。

【桂】 研修会では、教育講演で上皮細胞の基底膜に存在するコラーゲンについて話が聞けた。特にコラーゲンは場所によりその構成が微妙に変化し、さらに卵胞の周りにある基底膜のコラーゲンは排卵が近づくにつれ、徐々に消失していくという話は大変興味深かった。一般演題や全体討論では、我々の通常業務に関わる、遺体処置方法やホルマリン、カビの対策方法等、失敗談も含め、大変参考になる話を聞くことができた。

第115回日本解剖学会総会参加報告

桂 由香理 (医学系部門)

1. はじめに (目的等)

毎年、解剖学教室に携わる技術職員が全国の学校から参集して技術の向上や交流を図ることを目的に行われている解剖・組織技術研究・研修会(前述)が日本解剖学会総会の日程と合わせて開催されていることもあり、この度、通常業務の技術や知識を向上させるため、研修会と学会の両方に出席した。

2. 期間・場所・参加者等

- ・平成22年3月28～30日
- ・岩手医科大学, 岩手県民会館, 岩手県水産会館

(盛岡市)

- ・参加者数は不明 (大多数)

3. 研修内容

終日出席し、シンポジウムや一般演題を聴講した。

4. まとめと感想

解剖学会ではすべての演題を聴講するのは難しかったが、肉眼解剖学や解剖教育をテーマにした演題を中心に見て回った。ほとんどの演題が私にとってレベルが高く、理解しづらいものであったが、今まで知らなかった話題も多く聞け、非常に有意義な3日間であった。

この度の出張で得た知識や情報は、今後の業務に多いに活かしていきたいと思う。